

紫金山・アトラス彗星情報など

みごとな尾を引いた彗星を観測！

今年10月に見られると本コラムでお知らせしました紫金山・アトラス彗星が夕刻の西の空に姿を現し、写真にあるように長く尾を引いた姿で見ることができました。



12024年10月13日夕空に紫金山・アトラス彗星が見られた(霞ヶ浦行方市内で撮影:田中千秋)

10月13日の観測では、西空の中、金星と同じ高度くらいの低空で見られました。

その後、日々高度を上げ、次の写真にあるように10月22日には日没後1時間くらいたっても高度が30度くらいあり尾も長く見え、大変見やすくなりました。



10月22日の紫金山・アトラス彗星の様子（長野県佐久市内で撮影：田中千秋）

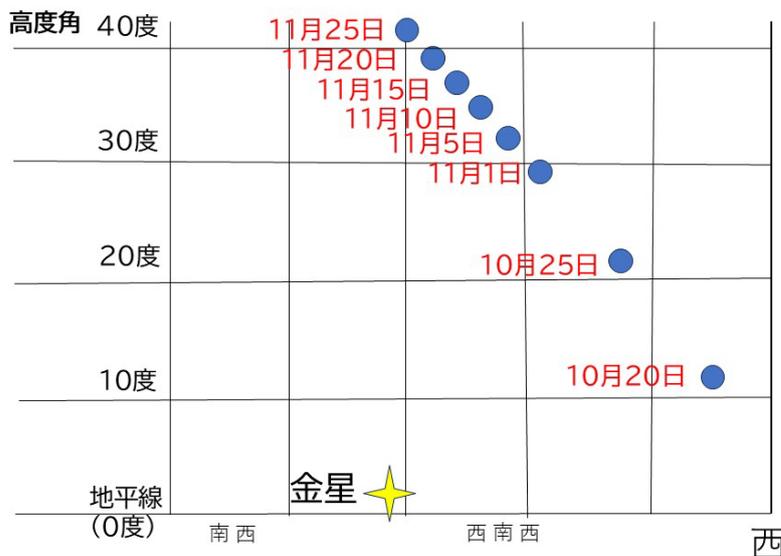
11月にも見られる紫金山・アトラス彗星

11月には彗星はだんだんと地球から遠ざかっていきますので、暗くなり、尾は短くなっていきます。いつごろどのあたりに見られるかを下図に表しました。

図をたよりに探すのがいいでしょう。恒星の見られる等級は都会地では2～3等星程度までしか見えず、光害の少ない郊外でも6等星が見えるのが限界です。

紫金山・アトラス彗星は、この限界の6等級程度あるいはもう少し暗い等級で見られることが予想されていますので、暗い等級まで見ることができる道具として、双眼鏡か天体望遠鏡を使うといいでしょう。

なお、写真撮影では、肉眼では見えない暗い星まで写すことができますので、ぜひ、撮影にもチャレンジしましょう。ナイトモードなどの夜間用撮影モードを持ったスマホなどが最適でしょう。



紫金山・アトラス彗星の位置 11月

(午後7時前後の西空)

11月の紫金山・アトラス彗星の位置

11月の星空

秋の星空は、澄んだ空気と共に天が高く見える特徴がありますが、都会の空では光害の影響などにより暗い星まで見ることができませんので、明るい星どうしを結んだ特徴的な星の配列をみつけて、それがわかったら星座の全体像をみつけましょう。そうしたさがし方からひとつひとつ星座をさがしていくといいでしょう。こうした星座の「発見」が大きな楽しみになります。

また、機会があれば郊外に出かけて光害の少ないところで再度、観察することをお勧めします。星図を頼りに星座を詳細に確認していくことは楽しみとしてとても有意義です。

秋の空では、みなみのうお座のフォーマルハウトただ一つが1等星で、それ以外の秋の星はみな2等星以下の暗い星々で構成されています。そうした中、みずがめ座には土星が輝いており、1等級の明るさで輝いていますので、これだけがとても目立ちます。ご確認ください。

11月の惑星

水星

11月16日に東方最大離角となります。夕方の西の空に彗星を観測できるかもしれません。金星も西の空に見えていますので、両星と一緒に1コマの写真に写しこめるかもしれませんね。(明るさ-0.3~1.6等級)

金星

宵の明星として、ようやく見やすくなってまいりました。紫金山・アトラス彗星の位置を確認するのも役立ちますからぜひ最初に見つけましょう。(明るさ-4.09~-4.2等級)

火星

冬の星座、ふたご座の中にありますが、明け方の空に赤く輝く明るい星としてみつけることができます。2025年1月の地球最接近に向けて観測チャンスが大きくなる星です。(明るさ0.1~-0.5等級)

木星

日没後の星空で、金星と共に明るく輝いて、目立つ星として木星があります。おうし座の中にありますから1等星のアルデバランやすばる(プレアデス星団)とともに対比しながら星空を眺めて楽しみましょう。(-2.5~-2.7等級)

土星

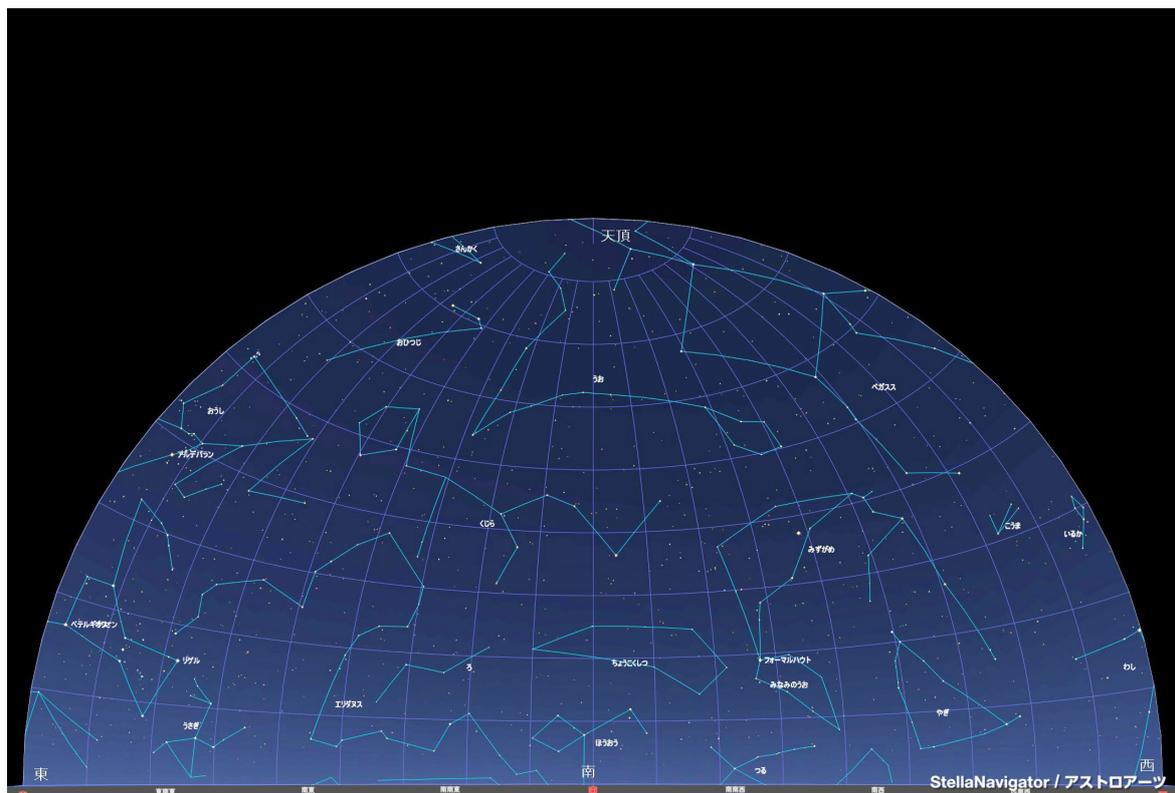
日没後に南の空、みずがめ座の中で輝いています。本体を取り巻く環が細く見られるようになってきました。機会を見て天体望遠鏡で確認しましょう。(0.8~1.0等級)

11月の天文情報 (月齢は正午の値)

日	曜日	月齢	天文現象など
1	金	29.3	新月
2	土	0.6	
3	日	1.6	文化の日
4	月	2.6	振替休日 細い月と金星が並ぶ
5	火	3.6	
6	水	4.6	月の赤緯が最南
7	木	5.6	立冬(二十四節気)

8	金	6.6	月面Xが見える
9	土	7.6	上弦の月
10	日	8.6	
11	月	9.6	月と土星が接近
12	火	10.6	おうし座北流星群が極大 月が天の赤道を通過北半球へ
13	水	11.6	
14	木	12.6	月の距離が最近
15	金	13.6	
16	土	14.6	満月(ビーバームーン)
17	日	15.6	月と木星が並ぶ しし座流星群が極大
18	月	16.6	月の赤緯が最北
19	火	17.6	
20	水	18.6	月と火星が接近
21	木	19.6	
22	金	20.6	小雪(二十四節気)
23	土	21.6	勤労感謝の日
24	日	22.6	
25	月	23.6	月が天の赤道を通過南半球へ
26	火	24.6	月の距離が最遠
27	水	25.6	
28	木	26.6	
29	金	27.6	
30	土	28.6	

11月の星空案内図



11月の中旬、午後9時ころの星空です。この星図は、(株)アストロアーツの許諾を受け、天文ソフト「ステラナビゲータ12」を使用しています。